



広島中央トピックス



▲「はとむぎ茶茶茶」の目録を受け取る市場教育長(左)と感謝状を受け取る高藤常務

6月24日には、東広島市役所で東広島市教育委員会の市場一也教育長にJAの高藤秀信常務から「はとむぎ茶茶茶」の目録と感謝状を受け取りました。JAは、1981年からハトムギの産地化に取り組んでいます。2024年度は5戸が1haで作付けています。「はとむぎ茶茶茶」は、同町産のハトムギと東広島市産の緑茶をブレンド。小学校への寄付は、管内の特産品を全児童に飲んでもらい、地産地消や食農教育につなげます。



子どもたちに地元産を 管内小学校にはとむぎ茶贈る

JAひろしま広島中央地域とJA共済連広島は、オリジナルペットボトル飲料「はとむぎ茶茶茶」約1万2000本を東広島市と三原市大和町の小学校33校に贈りました。

が目録を手渡し、同市から感謝状を受け取りました。市場教育長は「地元の特産品を知ることが、食を通じた文化の継承につながる」と話し、高藤常務は「次世代を担う子どもが農業への理解を深めるきっかけにしたい。地元で知名度を上げることで生産基盤も守りたい」と意欲を見せました。



▲御園宇小学校の児童にも「はとむぎ茶茶茶」を贈りました

7月9日には、西条支店の松田憲治支店長と西条アグリセンターの泉谷直希センター長が西条町の御園宇小学校を訪れ、「はとむぎ茶茶茶」504本を贈りました。



組織活性化へ 農青連通常総会

JA青壮年連盟広島中央地区本部は6月12日、東広島市で令和6年度通常総会を開き、12人が参加しました。

新規就農者などに声を掛け、農業に理解を持ったファンを増やす活動や政策提言活動を展開することで、地域農業の振興や農業・農村の明るい未来につながる取り組みを強化していくことを決議しました。

役員改選では、新委員長に黒瀬町の北台昇平さん、副委員長に橋川信行さんと金原貴生さんを選任しました。

総会後の研修会では、JA全農ひろしまの坂田健さんを講師に迎え、土壌診断の必要性と結果の活用について知識を深めました。



▲あいさつをする北台委員長

エコキャップ運動 取り組み15年目

JA女性部広島中央地区本部は、ペットボトルのキャップをリサイクルし、NPO法人を通じて途上国の子どもにワクチンを寄付する「エコキャップ運動」に取り組んでいます。

運動は今年で15年目。2023年度分は、2022年度の2.4倍の1t422kgと過去最多を集め、711人分のワクチン寄付につなげました。環境保全、社会貢献活動の一環で、一層の展開を目指



▲集めたキャップを仕分けする女性部員

6月11日にはJA志和アグリセンターで集めたキャップを仕分けし、規格外品や汚れがひどいものなどを取り除きました。



水稲

昨今の米不足報道について

新聞やテレビなどで盛んに米不足についての報道がなされています。昨年度、フェーン現象による熱波で東北産地(主に新潟)が軒並み不作になった影響によるものとされていますが、高齢化や後継者不足による水稲の不作付け地が拡大したことが表面化してきたものだと考えています。

過去の米不足を振り返って

平成の大凶作と言われた平成5年は国内需要1000万tに対し、作況74で供給量は740万tでした。国はタイやアメリカから緊急的に米を輸入したため「平成の米騒動」と言われました。

また、平成23年に発生した東日本大震災では、津波や原発による被害により14万t供給量が減少し、全国の生産量は793万tとなり、平成23年産の米価は上昇しました。令和5年産の全国の米の生産量は

669万t、平成の大凶作と比較すると90.4%、大震災の年と比較すると84.3%と少ない生産量となります。一度作付けをやめてしまった田は、復活しないことを前提にすれば、米は非常に脆弱な供給基盤になってしまったことがよくわかります。

収量確保のために

今からの管理で収量や品質に差がでます。今年度も猛暑傾向であるため特に水管理に注意しましょう。今年度の生育状況は調査結果としては概ね平年並み、猛暑の影響もあり圃場の場所にもよりますが5日程度早く生育が進んでいます。ただし、先にも記載したとおり、圃場によっては分けつ期にガス沸きによる生育阻害を受け分けつ数が少ない圃場もみられます。

昨年度の広島県の作況指数は103の「やや良」でしたが検査場での生産者の意見では平年並みか少なかった方が多かったようです。統計上では気温や日照の推移から特に中生品種以降の作況は上振れましたが、そもそも分けつ数が少なく有効茎数が少なければ収量の確保は難しいです。水稲の管理では初期の水管理により茎数を確保すること、収穫前、完全落水するまでの管理で籾を充実させることが収量を確保するために最も重要な点です。

収穫前の水管理

早いもので、8月に入ると早生品種の収穫準備になります。まずは水管理ですが、先月号でお伝えしたとおり、籾を充実させるために、幼穂形成期から収穫直前まで田に水分が含まれるようにします。溜めっぱなしという意味ではなく、田面が白く乾かないよう走り水を繰り返すようにします。田の状態にもよりますが、完全落水は刈り取りの10日前が理想的です。

刈り取りの時期

「コシヒカリ」で早いものは8月下旬に収穫期を迎えます。刈り取りの時期は現物をよく見て判断してください。籾は刈り取りまで充実を続けることを考えると、早刈りは充実不足により等級が低下し、収量が減少します。一般的に籾の黄化率85〜90%程度が適期です。収穫判断は穂を数力所から切り取り、しごいてその籾を青と黄に分けるのが一番確実です。

「あきさかり」では刈り遅れると胴割れが多くなるので黄化率80%くらいから刈り取りを考えます。「恋の予感」は刈り遅れによる品質の劣化はほとんど見られませんので、十分、籾が充実してから刈り取りを行なうようにしましょう。

収穫前の対策

収穫前の準備としては、マメ科植物「クサネム」対策です。色こそ違えど「クサネム」の種の形状は玄米に似ているため、ライスグレーダーでは取り除けません。小面積なら抜き取るようにしましょう。薬剤ではマメ科植物に卓効である「ノミニー液剤」を散布しましょう。この薬剤はイボグサにもよく効きますが、使用時期が収穫60日前までなので注意してください。

収穫調整作業

一年を締めくくる収穫調整作業はくれぐれも間違いないようお願いいたします。検査現場でよくある例としては次のとおりです。

- ①計量機器の調整不足による欠量もしくは過量
- ②高温時に長期に生籾を放置していたため蒸れ米になった
- ③籾摺り機の調整不足による籾高もしくは肌擦れ
- ④過乾燥による胴割れや乾燥不足

大幅な等級低下につながる事案もあります。特に②は規格外になるだけでなく、食味も下がります。刈り取り後は速やかに涼しいところに置き、生籾の温度管理を徹底してください。

野菜

ニンジンへの秋まき栽培

常食野菜の代表「ニンジン」を広島県中部で生産する場合、春まきと秋まきが可能です。

春まきは収穫期が梅雨時期になり、腐敗などが多くなるため収穫適期はごく短いです。それに対し、秋まきは、「ニンジン」自体が冷涼な気候を好むため、比較的容易にかつ、長く収穫できるのでぜひとも栽培にチャレンジしてください。



品種の特性について

昨今、改良も進み、生食に向く「フルーツニンジン系」の品種などもあります。品種を選ぶ際は、種の袋に次のような品種特性が記入されていることが多いので参考にしてください。

●「吸い込みが良い」

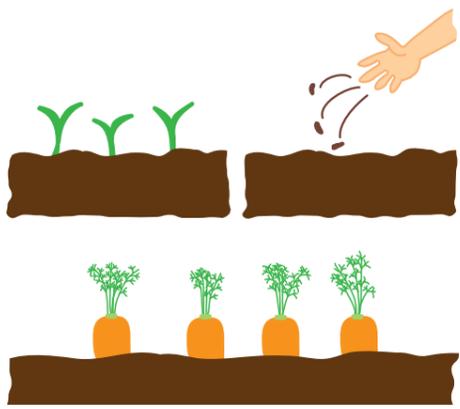
ニンジンは播種後そのまましておくと肩の部分で地表に出ます。地表に出たところは光合成作用で黒く変色するので、追肥と同時に土寄せをします。「吸い込みが良い」品種は、ニンジンが大きくなると根が張る作用で土にも沈み込むので土寄せをしなくても肩が黒くならにくいです。

●「揃いが良い」

生育が早く、営農向き品種になります。ただし、収穫が遅れると裂根になりやすいです。

●「在圃性がよい」

比較的寒さに強い品種が多いです。家庭菜園での秋まきでは寒さに強い品種を選べば長く楽しむことができます。



圃場準備

ニンジン種の種をまく圃場には、堆肥を散布してはいけません。土中にある堆肥にニンジンの根が反応し岐根になります。

また、根菜類ですので水はけの良いところを選ぶようにしてください。化成肥料と苦土石灰の目安は、ともに1a当たり10kgで、散布後はしっかりと混和してください。

播種時期

播種時期は高温を避け、盆過ぎから9月上旬までに行なうようにします。ネキリムシ類の対策として「ダイアジノン粒剤5」を土壌混和してください。

※必ず使用前にラベルを確認してください。

播種後の管理

ニンジン原産地はアフガニスタン周辺です。乾期と雨期がはっきりした地帯であったため、播種後初期成育は湿潤に、後期は乾燥気味で栽培することがポイントになります。広島県中部での春まき栽培が難しいのは生育好適環境と気象条件が逆になるからです。

播種後はたっぷり灌水し、切りワラなどで地表の乾燥を防ぎます。特にペレット種子の場合、乾燥するとペレットが固いままになり、発芽率が落ちるので注意します。その後、発芽までは毎日夕方に灌水し、葉枚数10枚になるまでは乾燥させないよう注意してください。

ニンジン成長はまず、根が垂直に伸びることで根長が決定します。その後はその根が太っていくように成長するので込み合うところは間引きを行ない、最終的には10cm間隔程度にすれば品質の良いニンジンになります。





刈払機による事故が多発しています

水田の土手を草刈り中…

急な勾配の法面で刈払機を使用中、傾斜で足を滑らせ転倒、右肩と背中を強打。

作業場所の事前確認をしないまま…

刈払機で草刈りをしていたところ、地面から跳ね飛んできた鋼線が右下腿のすねに刺さり貫通。

刈り刃がキックバックを起こし自分の方向へ…

背負い式刈払機で水田畔の草刈り中、進入路脇の盛り土に刈り刃が当たった瞬間、自分の方向に跳ね返ってキックバックを起こし、左足を切る。

慣れた場所なので、安全装置・ゴーグルなしで…

刈り残した道路わきの草を短時間で刈り終えようと、安全装置・ゴーグルをせずに草刈り作業を行なったところ、右目にチップソーのチップが2個飛び込み失明。

回転している刃の上に足が落ち…

竿部分が長い刈払機で雨上がりの法面を草刈り中、法面を滑り落ちて回転刃の上に足が落下。小指部分を切創。

経験の浅い従事者が法面で草刈り中…

刈払機の回転刃が土のかたまりで跳ね、左足の中指を切る。

チップが右手首に刺さり…

排水路の法面を草刈り中、隠れていた異物に刃が当たり、欠け散ったチップが右手首に貫入。

安全管理と事故防止対策

- ・滑りやすく長い法面は途中で足場や小段を設ける。
- ・作業開始前に作業場所を確認し、構造物や切り株、針金、石、空き缶などが無いことを点検。
- ・刈払機に定められた作業方向に従い、逆方向や往復刈り、不安定な状態などで作業を行わない。
- ・飛散物防護カバーなどを装備し、ゴーグルやフェイスガードを着用。
- ・チップソーの刃はJISマークが刻印してある商品を使う。
- ・朝露や雨などで作業面が濡れているときは作業を行わない。
- ・作業初心者には危険認識の教育と実地指導を徹底。
- ・ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、耳栓、防振手袋、腕抜き、すね当て、スパイク靴などの防護具を着用する。



監修：全国農業改良普及支援協会 制作協力：株式会社コセプロ
 出典：「事故事例・事故防止14のキーワード」(農業安全総合推進協議会)
 「農作業安全指導マニュアル」(農業安全リスクカルテ) (日本農業機械化協会)



東広島市
園芸センターより

新規就農者育成総合対策事業をご紹介します

新規就農を検討されている方を対象とした国の支援策です。

経営発展支援事業

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営発展のために必要な機械・施設の導入等の取り組みを支援する制度。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他

【補助率・限度額等】

- ・補助限度額 1,000万円
- ・補助率 国1/2、県1/4 ※その他条件あり

経営開始資金

次世代を担う農業者となることを志向する方に、就農直後の経営確立に資する経営開始資金を交付する制度。

【主な交付対象者の条件】

- ・就農時45歳以下
- ・認定新規就農者
- ・独立自営就農
- ・その他(農地取得など)

【補助率・限度額等】

- ・補助率 10/10
- ・支援額 年間150万円
- ・交付期間 最長3年間

※条件によっては申請できない場合があります。 ※予算の範囲内において、計画の審査等により採択されます。
 ※要件を満たせば必ず採択されるものではありません。
 ※農林水産省のホームページで詳細(主な交付対象者の条件、補助率・限度額、その他)をご確認いただき、園芸センターまでお問い合わせください。

申込・問い合わせ 東広島市園芸センター Tel (082)433-4411